

三浦支部長 森 カヨ子 (S 5 1 年卒)

三浦市は、三浦半島の先端に位置し、三方を海に囲まれた風光明媚なところです。三浦市最高峰！（98メートル）の岩堂山からは、緑の畑越しに南に大島、東に東京湾と房総半島、西には相模湾と富士・・・と、どこを切り取っても絵になる素晴らしい景色が見えます。



白石からみた富士

気候は温暖で、一年中、畑には緑が絶えません。春はキャベツ、夏はスイカ・かぼちゃ、冬は大根・・・とそれぞれの違った緑が畑に縞模様を描き、どこを切り取っても絵になる景色です。

市の観光アピールのキャッチコピーは

「思い立ったらすぐあえる、

都会のとなりの自然です」

釣り・海水浴・ミカン狩り・イチゴ狩り等々と、オールシーズン自然の恵みを楽しむことができます。近年は、城ヶ島の水仙や三浦海岸の河津桜が人気で花の時期は大混雑です。また、土日や年末は、美味しい魚を求める人々で、魚市場は賑わっています。市内には、イルカショーやカワウソの握手会、TV で有名になったペンギンのペンペンがいることで賑わっている水族館もあります。

こうした豊かな自然環境は、学校教育にもたくさん生かされています。

平成 24 年 3 月、三浦市は東京大学三崎

臨海実験所と連携協力協定を結び、三浦の海を活用した海洋教育を推進しています。教員の研究組織も立ち上げられ、海との関わりを題材とする教材開発研究が、自然科学分野に限らず多面的に進められ、地域の自然と関わる学習が積極的に展開されています。

学校数は、長年、小学校 8 校・中学校 4 校でしたが、近年、人口減少に伴い、中学校が合併して 3 校となってしまいました。学校数が少ないので、小中合わせて 11 校が連携し協力して三浦市の学校教育を支えています。

会員数は現在、OB 会員 24 名 現職会員 24 名。三浦支部では、国大卒の新採用が少なく、会員数は減少する一方で寂しい限りです。

支部総会もなかなか開くことができませんでしたが、平成 25 年 1 月に久しぶりに支部総会を開き、新旧の懐かしい顔ぶれが揃いました。同年代で昔を懐かしんだり、若い世代と先輩の世代のそれぞれの話を聞くことができ、貴重な情報交換の場になりました。

総会は定期的に開くことが難しいので、年に 2 回ほど、支部だよりを発行し、総会や新年会・ホームカミングデーの様子などを報告して、情報の共有化を図っています。

友松会本部では、現役学生の入会への取り組みが始まりました。今、学校現場では、学生ボランティアが貴重な人材の一つとなっています。近隣に大学のない三浦市では、現役学生とつながる絶好の機会となるかも知れません。三浦支部でも、新しい活動の在り方を探る機会としていきたいと思っています。